

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2495 号

Surgical outcomes of interval laparoscopic appendectomy for appendiceal abscess and predictors of conversion to open surgery

膿瘍形成性虫垂炎に対する待機的腹腔鏡下虫垂切除術の手術成績と開腹移行リスク因子の検討

関根 悠貴 (せきね ゆうき)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、当院で経験した急性虫垂炎症例 903 例に対する治療経験を基に、膿瘍形成性虫垂炎 58 例を対象に、保存的治療後の待機的腹腔鏡下虫垂切除術 (Interval laparoscopic appendectomy; ILA) 44 例の治療成績を、通常の緊急腹腔鏡下虫垂切除術 (Emergency laparoscopic appendectomy; ELA) 14 例と比較し、膿瘍形成性虫垂炎に対する保存的治療後の ILA が有用であることを示した研究である。また、ILA における開腹移行リスク因子を検証し、保存的治療時の高度炎症の存在、抗生剤 escalation の必要性、長い入院期間の 3 項目が開腹移行と密接に関連したリスク因子になりうることを明らかにした。膿瘍形成性虫垂炎の対象症例は決して多くないものの、ILA における開腹移行リスク因子の検討は、これまでに報告がなく、臨床的に意義のある論文と考えられた。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。